リリース ノート

日本語

Prinergy 3.1

739-00112B-JA 改訂 C

www.creo.com

著作権

Copyright © 2006 Creo Inc. All rights reserved.Creo 文字商標、Creo ロゴ、および本ドキュメントで参照されている Creo の製品とサービスの名前は、Creo, Inc. の商標です。

Adobe、Acrobat、Adobe Illustrator、Distiller、Photoshop、PostScript、および PageMaker は、Adobe Systems Incorporated の商標です。Apple、iMac、Power Macintosh、AppleShare、AppleTalk、TrueType、ImageWriter および LaserWriter は、Apple Computer, Inc. の登録商標です。Macintosh は Apple Computer, Inc. の商標で、米国およびその他の国で登録されています。PANTONE、Hexachrome、PANTONE Hexachrome、および PANTONE MATCHING SYSTEM は Pantone, Inc. に属します。PEARL、PEARLsetter、PEARLhdp、PEARLdry、および PEARLgold は Presstek, Inc. の登録商標です。XEROX®、The Document Company®、および digital X® は XEROX CORPORATION の商標です。その他の銘柄または製品名は、各所有者の商標または登録商標です。

Creo Inc. の書面による明示的な許可なくして、本ドキュメントのすべてまたは一部を複製、頒布、出版、変更、または組み込むことはできません。本ドキュメントの複製、頒布、出版、変更、または組み込みが許可されている場合は、著者の帰属、商標凡例、または著作権表示を変更または削除することはできません。Creo Products Inc. の書面による明示的な許可なくして、電子的、機械的、複写、記録、またはその他のいかなる形式や方法でも、本ドキュメントのすべてまたは一部を複製、検索システムに格納、出版、商取引の開発を目的とした使用、または伝送することはできません。本ドキュメントは Adobe Systems Incorporated の PDF（Portable Document Format）形式で頒布されています。お客様は、社内利用を目的として PDF ファイルからドキュメントを複製することができます。PDF ファイルからコピーを作成する場合は、ドキュメント全体を複製する必要があります。

Creo, Inc.
3700 Gilmore Way
Burnaby, B.C., Canada
V5G 4M1
電話：+1.604.451.2700
FAX：+1.604.437.9891
http://www.creo.com

ドキュメント番号 739-00112B-JA 改訂 C
2006 年 7 月改訂

目次

はじめに 1
このリリース ノートについて 1
新機能および改善された機能 2
Adobe コンポーネントのアップデート 2
NexPress への JDF 接続性の向上 2
PhotoShop TIFF 入力 3
OPI の拡張 3
見当加減プロファイルでのワイルド カード 6
現在の問題点と制限事項 7
統合された Preps を使用した面付けの編集では PJTF のみをサポート 7
自動面付けエンジンで作成した情報を含む JDF をインポートできない 7
一部の CEPS ファイルが有効な入力タイプとして認識されない 7
更新の要件と参考資料 7
Prinergy システムのアップグレード方法 7
アップグレード要件の詳細 8
Prinergy マニュアルについて 8
最新版の Prinergy アップグレードについて 8
他のコダック ソフトウェアとの統合 9
Adobe コンポーネント 10
CPSI RIP 10
フラットナー 10
ノーマライザ 10
PDF ライブラリ 10

はじめに

このたびは、Prinergy® ソフトウェアの最新バージョンをお買い上げいただき、ありがとうございます。このリリース ノートでは、Prinergy ソフトウェアの 3.1 のリリースにあたり、ソフトウェアの変更点および改良点について説明します。

このリリース ノートについて

このリリース ノートには以下のセクションが含まれています。

新機能および改善された機能 — Prinergy ソフトウェアに追加された新しいメニュー項目、オプション、ウィンドウ、またはダイアログ ボックスについて説明します。また、既存の機能の改善点について説明します。

現在の問題点と制限事項 — 未解決の問題、および機能の制限事項について説明します。

更新の要件と参考資料 — 更新を正常に完了させるための要件や推奨事項について説明します。また、参考資料を紹介します。

他のコダック ソフトウェアとの統合 — Prinergy と共に使用できるコダック ソフトウェア製品について説明します。

Adobe コンポーネント — Prinergy の本リリースに含まれる Adobe® ソフトウェアのコンポーネントおよびバージョンについて説明します。

新機能および改善された機能

このセクションでは、Prinergy ソフトウェアの 3.1 リリースにおいて追加および改善された機能について説明します。

注意： オプション機能を利用するには、その機能に対応するライセンスを購入し、Prinergy システムの機能を有効にする必要があります。詳細については、担当営業までお問い合わせください。

Adobe コンポーネントのアップデート

Prinergy 3.1 には、中核となる処理コンポーネントの最新バージョンが用意されています。本リリースでは、Normalizer 7、Flattener 7、PDF Library 7、および CPSI 3017 RIP が提供されています。これらのコンポーネントでは、以前のバージョンの Prinergy で報告されていた、さまざまな問題が解決されています。特に、CPSI 3016 RIP で報告されていた多数のフォント処理に関する問題が、CPSI 3017 RIP では改善されています。

CPSI 3017 RIP は、CPSI 3016 RIP に対して比較的小規模なアップデートを行ったコンポーネントですが、この最新版のリリースをインストールする際には、十分に注意してください。特に、プルーフや校正を行う場合に使用する RIP のバージョンと、最終出力を作成する場合に使用する RIP のバージョンが同じであることを必ずご確認ください。

注意事項

プルーフと版の作成

古いバージョンの RIP でプルーフしたものに対し、CPSI 3017 RIP を使用してプレートを作成する場合は注意が必要です。プルーフとプレート作成時の RIP のバージョンが異なるとデータの解釈が異なるため、出力結果に違いが生じる可能性があります。できる限り、プルーフを生成した Prinergy と同じバージョンを使って、プレートを作成するようにしてください。

注意： 複数サイト運用での設定では、Prinergy 3.1 へのアップグレードを同時に行うように調整する必要があります。

再版

古いバージョンの RIP を使って以前に出力されたジョブを再出力する場合は、CPSI 3017 RIP で再度プルーフを行い、元の印刷物と再出力した版に差異がないかどうかを確認してください。

NexPress への JDF 接続性の向上

Prinergy 3.1 では、Kodak® NexPress™ デジタル プレスとの統合のために、デジタル印刷オプションの機能が拡張されました。NexPress JDF Workflow Planner との統合を行うため、JDF 統合機能を備えた Prinergy のデジタル印刷オプションにより、オフセット印刷とデジタル印刷のワークフローを一体化して、自動化を促進します。

JDF Workflow Planner により、Prinergy ワークフロー システムを使って NexPress Web サイトから Kodak® NexStation™ の JDF 機能にアクセスし、NexPress プレス出力用のフロントエンドとして使用することができます。Prinergy Workshop 内か

ら JDF Workflow Planner を起動して JDF テンプレートを作成し、NexPress の 5 胴目のイメージング ユニットを制御して、グロス処理やコート層の作成、および色再現領域（カラー ガモット）を拡大することができます。オペレータは、オフセット ワークフローからデジタル印刷ジョブを定義、開始、自動化できるため、ジョブを円滑にリダイレクトし、プレスを最適な形で活用することができます。

PhotoShop TIFF 入力

ノーマライズ機能で、グレースケール、RGB、および CMYK カラースペースなどの、Adobe Photoshop® ソフトウェアで作成された 8-bit TIFF を処理できるようになりました。また、Photoshop の 1-bit TIFF（ビットマップ）も処理できます。

L*a*b* とスポット カラー TIFF はサポートされていません。また、サード パーティのワークフローやソフトウェアからの 1-bit TIFF および 8-bit TIFF もサポートされていません。

OPI の拡張

Prinergy 3.1 では、新たに 6 つの OPI 機能が用意されています。

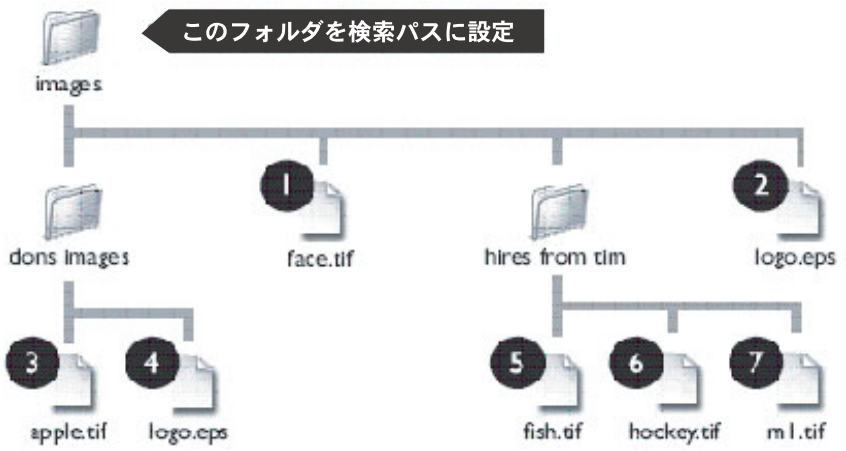
- 各画像検索パスのサブフォルダでの検索
- Photoshop TIFF 画像に含まれているクリッピング パスの適用
- Photoshop TIFF のスポット カラー チャンネルを含める
- Photoshop TIFF のアルファ チャンネルからソフト マスクを作成する
- ドロップシャドウ画像を透明にする
- 無視する画像を拡張子で指定する

これらの機能は、既存の設定との互換性を保つために、デフォルトではオフになっています。これらの機能を有効にするには、プロセス テンプレート エディタでリファイン プロセス テンプレートを編集してください。これらの設定項目は、［**フォントと画像**］セクションにあります。

検索機能の向上

以前のバージョンの Prinergy では、OPI に使用する画像がある各フォルダを、ユーザーが個別に指定する必要がありました。多数のフォルダを使って画像を管理しているユーザーの場合、この作業には大変手間がかかります。新しいバージョンでは、画像検索時にサブフォルダも検索するように設定できるようになりました。

サブフォルダは名前のアルファベット順に検索されます。また、直下のフォルダがすべて検索された後に、さらに下位のフォルダへと順次検索されます。検索パスに **images** フォルダを設定した場合の検索順序を以下の図に示します。図に記載されている数字の順番に各ファイルが検索されていきます。



OPI エンジンが画像 **fish.tif** を検索する場合、まずルート フォルダ（**images** フォルダ）が検索され、次に **dons images** フォルダが検索された後、**hires from tim** フォルダを検索して 5 番のファイルを検出します。画像 **logo.eps** を検索する場合、検索順序により 4 番ではなく 2 番のファイルが使用されます。

同じ名前を持つ異なる画像がある場合は、この検索順序を考慮してファイルを保管するようにしてください。上記の例では **logo.eps** と言う名前を持つ画像が 2 つあるため、場合によっては間違ったファイルが検索される可能性があります。リファインされたページで結果を確認してください。

サブフォルダ数が多い場合、検索に時間がかかることもあります。そのため、リファイン処理のパフォーマンスに影響する可能性もあります。大量のサブフォルダを含むパスを指定する場合は、注意してこの機能を利用してください。

Photoshop TIFF クリッピング パス

以前のバージョンの Prinergy では、Photoshop TIFF 画像に設定されていたクリッピング パスを無視していました。この問題への対処方法としては、ファイルを Photoshop EPS として保存し、レイアウト ドキュメントでそのファイルを置き換える方法をお勧めしていました。今回のバージョンでは、OPI 時に Photoshop TIFF から直接クリッピング パスを取り込むことができるようになりました。

Photoshop TIFF のクリッピング パスの使用を前提にしていないソース ファイルの処理時にこの機能を有効にすると、予期しない画像のクリッピングが適用される可能性があります。リファインされたページで結果を確認してください。

Photoshop TIFF スポット カラー

以前のバージョンの Prinergy では、Photoshop TIFF 画像のスポット カラー チャンネルを無視していました。この問題への対処方法としては、画像を Photoshop DCS に変換し、レイアウトで置き換える方法をお勧めしていました。今回のバージョンでは、OPI 画像置換時に CMYK チャンネルに加えてスポット カラー チャンネルも含めることができるようになりました。

この機能を有効にすると、CMYK カラー チャンネルがすべてのスポット カラー チャンネルと統合され、単一のマルチ チャンネル DeviceN 画像が生成されます。これらの画像に対しては、カラー マッチングやトラッピングなどのリファイン処理を正常に行うことができます。この機能をオフにすると、画像ファイルで指定されたスポット カラー チャンネルはすべて無視されます。

スポット カラー チャンネルは、［チャンネル］パレットを使って作成、編集することができます。Photoshop からスポット カラー チャンネル名は継承されますが、レシピは含まれていません。正しいカラー レシピを使用して適切なカラー マッチングやトラッピングを行うために、リファイン プロセス テンプレートの［**スポット カラーの処理**］セクションで、［**カラー データベースでレシピを検索**］オプションを選択することをお勧めします。

Adobe InDesign® ソフトウェアの場合は、［プリント］ダイアログ ボックスで OPI を選択しても、スポット カラーを含む OPI 用 TIFF は除外されません。この問題に対処するには、まず CMYK TIFF 代替画像を配置し、InDesign ソフトウェアから OPI コメントを含む（ただし、画像を除外する）Adobe PostScript® を生成してから、検索ディレクトリに目的のスポット カラー チャンネルを持つ TIFF ファイルを配置してください。

Photoshop TIFF のソフト マスク

画像にソフト マスクを適用することにより､ぼかしやソフト シルエットなどの効果が可能になります｡この効果は､通常のクリッピング パスでは実現できません。クリッピング パスでは、画像に対してハード エッジしか適用できませんが、ソフト マスクを使用すればマスクのデザインに応じてハード エッジもソフト エッジも適用することができます。

この機能を有効にした場合、OPI エンジンは Photoshop TIFF 内に、ソース画像のソフト マスクを作成するために使われるアルファ チャンネルがあるかどうかを検索します｡複数のアルファ チャンネルがある場合は､最初のアルファ チャンネルが使用されます。残りのアルファ チャンネルは無視されます。この機能を無効にした場合、すべてのアルファ チャンネルは無視されます。

注意： この機能は、Photoshop の［レイヤー］パレットにあるマスキング機能や透明機能とは異なります。アルファ チャンネルは、［チャンネル］パレットを使って作成、編集することができます。

この機能は Adobe InDesign のビルトイン機能と似ていますが､QuarkXPress® ソフトウェアや、OPI コメントを生成する任意のソフトウェアで利用することができます。

ドロップ シャドウの透明機能

シャドウ画像の上に配置するドロップ シャドウ画像として、レイアウトに画像が挿入されることがあります。

このようなドロップ シャドウ画像の作成には、Quark ShadowCaster™ XTension を使用する場合があります。必要に応じて、ドロップ シャドウ画像を手動で作成することもできます。

この機能を有効にし、画像がドロップ シャドウとして指定されると、OPI エンジンにより透明が適用されます。ドロップ シャドウ画像には通常の画像と識別するための、特別なファイル拡張子を使用する必要があります。デフォルト の拡張子は、**.shd** です。たとえば、ファイル名 **shadow.tif** の画像には、透明は適用されません。ファイル名が **shadow.shd** の場合は、OPI エンジンにより透明が適用され

ます。このファイル拡張子は、リファイン プロセス テンプレートの［**フォントと画像**］セクションにある［次の拡張子のドロップ シャドウ画像を透明にする］ボックスで変更することができます。このボックスを空欄にすることはできません。

ドロップ シャドウ画像には、グレースケール、RGB、または CMYK のいずれも使用できますが、一般的にはグレースケールを使用します。ドロップ シャドウ画像を保存する場合は、TIFF 形式を使用することをお勧めします。

フラット化について

新しいソフト マスク機能やドロップ シャドウ透明機能を使用すると、PostScript から PDF にノーマライズされた後、自動的にフラット化されます。Adobe InDesign や Adobe Illustrator® など、透明が多用されているドキュメントの処理と同様に、予期しない結果を回避するために役立つさまざまなテクニックがあります。

レイアウトでは、ブラックのテキストは他のオブジェクトの一番上に配置してください。テキストは、すべてのオブジェクトの一番上に配置されている限り、ベクター オブジェクトとして保持されます。フラットナーはテキスト自体ではなく、テキストのバウンディング ボックスの境界だけを認識します。必ずテキスト ボックス全体を一番上に配置してください。ボックスの一部でも他のオブジェクトの下にあると、結果が異なります。

PostScript ファイルに出力する前の最終段階でスポット カラーを作成してください。フラットナーでの処理は、スポット カラー オブジェクトとプロセス カラー オブジェクトで異なります。オブジェクトを CMYK のみで再現する場合にだけ、リファイン処理の段階ではなく、レイアウト ソフトウェアでカラー定義を調整してください。スポット カラー変換を回避できない場合には、リファイン プロセス テンプレートの［**カラー変換**］セクションにある［**オーバープリント処理**］をオンにし、［**カラーをノックアウト**］をオフにしてください。

次の拡張子の画像を無視

この機能は、特定の種類の画像に対して OPI を実施しない場合に使用します。たとえば、同じページ内に高解像度の TIFF と低解像度の FPO がある場合に役立ちます。

見当加減プロファイルでのワイルド カード

見当加減を指定する構文に、同じ倍率で複数のカラーを出力するジョブ（フレキソ印刷で一般的）の設定を簡単に行うためのワイルド カード機能が追加されました。**ColorTowermap.txt** でワイルド カード（*）を使用すると、特定の Color Tower に未定義のカラーが割り当てられます。そのため、**.wgp** ファイルに必要な指定は単一の倍率のみになります。

たとえば、フレキソ印刷用の **ColorTowerMap.txt** ファイルでは、一般的に単一のエントリ（* 1）が指定され、すべてのカラーが Tower 1 に割り当てられるようになります。このため、**.wgp** ファイルに Tower 1 の倍率を指定するだけで、すべての Tower が指定されます。この機能は、スポット カラーのみが異なる CMYK + 1 色の一般的なジョブを印刷する輪転印刷でも使用できます。ワイルド カードを使って、各カラー（CMYK 以外）を CMYK Tower に続くタワー（* 5）に割り当て、汎用的な **ColorTowerMap.txt** を作成することもできます。これにより、オペレータが各ジョブごとに **ColorTowerMap.txt** ファイルを編集する手間を省くことができます。

現在の問題点と制限事項

このセクションでは、Prinergy ソフトウェアの既知の問題について説明します。以前のリリースからの未解決の問題と、新たに認識された問題があります。ここに記載されている問題が解決された場合、次のバージョンの Prinergy ソフトウェアのリリース ノートの「解決済みの問題」セクションに対処方法が記載されます。

統合された Preps を使用した面付けの編集では PJTF のみをサポート

Prinergy 3.1 で Preps® を使って JDF に出力し（Adobe PJTF ではなく）、その後インポートされた JDF 面付けを Prinergy で編集すると、Preps が JDF ファイルを正しく作成できない場合があります。この問題を回避するには、PJTF をお使いください。この問題は、Prinergy の今後のバージョンで修正される予定です。ご使用のワークフローでこの問題が深刻な影響を与える場合は、この問題を修正するための Preps を手動でダウンロードしていただけます。

自動面付けエンジンで作成した情報を含む JDF をインポートできない

Prinergy 3.1.0.2 をご使用の場合、Prinergy の自動面付けエンジンを使用して作成された情報を含む JDF をインポートできない場合があります。

この問題は、Prinergy の今後の更新で修正される予定です。

一部の CEPS ファイルが有効な入力タイプとして認識されない

CEPS 入力で、ORIS Handshake ファイルも含めた CEPS ファイルが、有効なファイルとして認識されないことがあります。この問題は、Prinergy の今後の更新で修正される予定です。対処方法としては、関連ファイルを選択せずに、**.fp/.assg/.R0P** ファイルのみを選択してください。

更新の要件と参考資料

Prinergy システムのアップグレード方法

『Prinergy 3.1　アップグレード ガイド』の手順に従って、ご使用の Prinergy システムをバージョン 3.1.x.y にアップグレードしてください。このガイドには、システムをアップグレードするためのシステム要件と、順を追った手順が記載されています。

『Prinergy 3.1 アップグレード ガイド』（英語版）は、の PDF は、Prinergy 3.1 Upgrade and Documentation DVD に含まれています。

このガイドの翻訳版がリリースされた場合は、今後のソフトウェア アップデートに追加され、eCentral® インターネット ポータルおよび DVD からご利用いただけます。

Prinergy システムのアップグレードに関するサポートが必要な場合は、コダック サポート センター（0800-919-0900）までお問い合わせください。

アップグレード要件の詳細

ディスクの空き容量

Prinergy 3.1 のアップデートを正常に完了させるには、ご利用のシステムのディスクに空き容量が確保されている必要があります。必要とされるディスクの空き容量は、お使いのデータベースの容量やシステム構成によって異なります。アップグレード パッケージに同梱されている **Precheck Utility** を実行し、ディスクに十分な空き容量があることを確認してから Prinergy を更新してください。

システム ドライブの容量

Prinergy プライマリ サーバーおよび Emergency Platemaking（EPM）サーバーの場合、今回の更新では 32 GB 以上のシステム ドライブを推奨します。16 GB のシステム ドライブもサポートしていますが、大きなデータベースを利用する場合、容量が足りなくなる可能性があります。システム ドライブが 8 GB のサーバーは、Prinergy 3.1 ではサポートされません。

クライアント更新用の共有フォルダ（Macintosh の場合）

ご使用の Macintosh から Client Auto Update（CAU）の共有ドライブをマウントする場合は、常に Apple Filing Protocol（AFP）を使用してください。Windows の Windows File Sharing（SMB）は使用しないでください。SMB を使用して CAU 共有ドライブをマウントし、何らかの操作を行うと、以降にインストーラが SMB を使用して自動的に接続する際に、共有ドライブのファイルにアクセスできなくなります。

Prinergy マニュアルについて

Prinergy Workshop および Prinergy Administrator の［**ヘルプ**］メニューからオンライン ヘルプやユーザー ガイドを参照することができます。Prinergy Administrator 用のクイック リファレンス カード（印刷物）がパッケージに同梱されています。

また、Prinergy 3.1 のアップデートおよびマニュアル DVD には、本ユーザー マニュアルや、その他の便利なガイドおよびテクニカル情報も含まれています。

主要なユーザー マニュアル一式の翻訳版がリリースされた場合は、今後のソフトウェア アップデートで追加される予定です。

最新版の Prinergy アップグレードについて

新しい Prinergy マニュアルや改訂版、およびソフトウェアは、eCentral からダウンロードできます。

https://ecentral.creo.com/jp/login-home1.htm/ からログインして eCentral にアクセスしてください。

eCentral にまだ登録されていない場合は、上記のページで、新規登録のお申し込みに関する情報を参照してください。

https://ecentral.creo.com/jp/login-home1.htm/ で［新規アカウントを設定］をクリックすると、登録ページが表示されます。

他のコダック ソフトウェアとの統合

Prinergy と共に使用することが多いソフトウェアの条件は以下のとおりです。この表に記載されていない他のソフトウェアやツールに関する対応については、Prinergy 3.0 と同じです。

コダック ソフトウェア	Prinergy 3.1 でサポートするバージョン
InSite	InSite 4.5.0.1978 以降
Link	Link 2.1 以降
Preps	Preps 5.2（Plus または Pro）が Prinergy 3.1 Workshop に統合され、ジョブから直接、面付けの作成や編集を行うことができるようになりました。 Preps 4.2、5.0、および 5.1 を使用している場合は、面付けテンプレートを作成して出力したファイルを、Workshop 経由で Prinergy にインポートしてください。

Adobe コンポーネント

Prinergy 3.1 には、以下のバージョンの Adobe ソフトウェア コンポーネントが含まれています。今後のマイナー アップデートでの変更については、Readme ファイルなどの情報ファイルでご確認ください。

CPSI RIP

CPSI RIP はドキュメントをラスタライズします。ただし、ハーフトーン スクリーン パターンは Creo コンポーネントで定義されます。

Printer JTP：CPSI 3017.102-04_MOD.001

CEPS Output JTP：CPSI 3015

フラットナー

フラットナーは、ドキュメントを PDF 形式から PostScript 形式に変換します。

PDFToPS.dll：3017.102-00

ノーマライザ

ノーマライザ機能は、ドキュメントを PostScript 形式から PDF 形式に変換します。

Nserver.dll：7.0.5_MOD.001

PDF ライブラリ

Prinergy では、PDF ライブラリを使用して PDF ドキュメントの読み取り、変更、書き込みを行います。

PDFL60.dll：7.0.0.0